

## 自立支援協議会 相談支援部会 記録

日時：令和6年9月13日（金） 15：30～17：00

場所：今治市総合福祉センター2階 障がい者交流室

司会：今ねっと 記録：今ねっと

### 【参加事業所】

- ・地域活動支援センターときめき ・発達支援センター
- ・障害者就業・生活支援センターあみ：・基幹相談支援センター
- ・障がい者生活支援センター ・びよびよ ・ぽびー
- ・障がい福祉課 ・上島町 ・今ねっと

### 1 事業所からの報告

#### ○障害者生活支援センター

10/22（火）13：30～15：30 高次脳機能障がいサロンを行う。

対象は今治在住の本人とご家族 当事者は調理で、ご家族は座談会を行う。

あいらんど2F 多目的室と調理室で行う。

#### ○障害者就業・生活支援センターあみ

10/17、18、21、22 合同説明会

#### ○地域活動支援センターときめき

10月の行事予定について（別紙参照）

### 2 計画相談支援事業所連絡会と相談支援部会の来年度からの紐づけについて

#### 基幹

来年度から計画相談支援事業所連絡会と相談支援部会の紐づけをする。どのような形で会を進めているのか相談員に見てもらえたら。相談業務優先で任意で参加してほしい。協力をお願いしたい。

### 3 地域課題の検討（別紙参照）

2024.5① 運営会議での協議結果について、8月の連絡会で基幹相談支援センターよりニーズが出ていることを投げかけてもらっている。

### 次回の開催

日時：令和6年11月8日（金） 15：30～17：00

場所：今治市総合福祉センター2階 障がい者交流室

司会：今ねっと 記録：発達支援センター

事前記入			相談支援部会で確認	
どこから?	どんな課題・こまりごと	なぜ地域課題と思ったか? どんな風に困ったか? どんな風に困っているか?	地域課題?	運営会議での協議結果
2024.5①	個人	高校（高等部）卒業後、生活介護移行、帰宅時間が早くなる 親の就労形態の変更を余儀なくされる。家族の経済的負担になる。生活介護事業所の利用時間の延長があれば良いのという声を何人かの親御さんから話を聞いている。→他市で対応しているところがある。	提出	相談支援部会で他市で対応している事例を探ることになる(R6.5.22) →R6.7相談支援部会にて、ニーズアンケート後、生活介護事業所にニーズを伝えてはどうかという意見→R6.7運営会議で、まずは、計画相談連絡会で相談員にこのようなニーズが出ているか投げかけて、今年度くらいで状況把握する。状況によっては放デイや生活介護に聞いてみるということになる。→R6.8の計画相談連絡会で基幹相談支援センターより投げかけて頂いている。
2024.5②	個人/事業所	自立訓練事業所の利用が最長3年でやっと慣れたところで、次の居場所を見つける為に利用したいが期限があることで利用できない。 自立訓練終了後、次に繋がるのが難しかった方の居場所がなく再度ひきこもりになってしまうことがあった。 →3年の期限を利用日数でカウントしてもらえたら。	提出	(R6.9運営会議より) ・課題があることを健康推進課や心と体の健康センターなど、ひきこもり対応をしている所に全体会などで伝えていく。 ・計画相談連絡会で、他の相談員にどうしているかを聞いて拾い上げる。 ・来年度相談支援部会と発達支援部会で、インフォーマルな情報があるかどうか情報収集、検討を行う。
2024.5③	個人	児童のショート利用先がなかなかない。 利用できる事業所が少ない。また、環境の変化の苦手さから、知らないところを利用しづらい上に泊まるということに親子共にハードルが上がるとい話を聞く。 →医療ケア児は市外に行かないといけない。重度の子どもさんを受け入れるところが少ない。医ケア児のショート利用も含め検討してほしい。	提出	
2024.5④	事業所	法改正で、送迎の時間や勉強会の確保が勤務時間での確保が難しい。 という声を聞いた。 →事業所内で考える。	×	

2024 .5⑤	学校	発達支援センター開催の講演会のオンラインを録画視聴で一定期間視聴できたら。講演会の時間は授業があって知識を得たくても参加できない。	という声を聞いた。 →嫌がる講師もいるため、可能な講師のみアーカイブを残す。	×
2024 .5⑥	個人	課題というか取り組まないといけないうこと。 利用者の相談を受けてサービスや対応する相談の質を上げることへの取り組み	ケースによっては多くの問題があり、それに対応できるよう様々な知識習得、質向上の機会が必要。 (研修、OJTなど) →自分たちで考える。 →9の課題につながるのでは。	×
2024 .5⑦	事業所	生活介護、グループホーム等、それぞれの事業所でやっていることを知らない。共有したい希望あり	そもそも放デイ連絡会のように部会を立ち上げられること自体知らない。周知が不足？→相談されたら基幹相談支援センターがバックアップしてくれることを周知する。	×
2024 .5⑧	個人	資源が少ないので、上島町から今治に通所している方。4月に船便が減り、通所日や時間(ショートの利用日も含めて)を変更せざるを得なくなった。このまま減り続けると通所が難しいと考えられている。	島の資源が少ない。 仕方ないと思うが、船便が減っていく。 →上島町にも声が届いたら。 相談支援部会を上島町の方が出席しやすいようオンラインで繋ぐ？	提出
2024 .8⑨	個人	相談員が少ない。	それぞれの持っている件数が多く余裕がない。希望されても受けられない状況。その中で質の向上だけ求められても難しいのではないかと。→ESKに伝える？	×
2024 .5⑩	事業所	グループホーム、施設の空き状況がぼんやりしてる。	事業所それぞれの宣伝や周知の問題でもあると思うが、ネットなどで掲示されれば、個人も相談員も探しやすいし、運営も回るのでは？とのこと。 →みんながみれるようにするのは難しいのではないかと	×
2024 .5⑪	事業所	高次機能障害グレーゾーン。手帳が取れない。本人の病識が低い病識がない。働きたくても働けない。どこにも行けない。家にいて家族がみている。	生活困窮の予備軍となったり、高次機能のグレーゾーンの方にも目を向けてもらいたい。 →心療内科等の医療機関にかかるなどして診断書を書いてもらうといいのではないかと。 →自立支援医療制度を利用し、福祉サービスに繋がるきっかけを作ってみてはどうか。	×

2024.5⑫	事業所	<p>地域の中で他者との繋がりが感じることができる場所が少ない、もしくはあまり知られていない。</p>	<p>自分と同世代が少ない職場で働く方が職場内で友達関係、仲良し関係を求めることがあり、その関係が叶わない時に「仕事を辞めたい」気持ちに繋がることがあった。「若者」「中年層」などで交流ができる場や資源などがあると、対象者へ情報提供できると思ったから。</p> <p>→地活、イベントに参加してはどうか</p>	×	
2024.5⑬	事業所	<p>・ 自立支援協議会各部会の連携</p>	<p>各部会が密に連携することで良い支援につながる。各部会の情報が知りたい方が多い。</p> <p>→HPに議事録が掲載されていることを知らない方が多いので、まずはHPを見て頂いて内容を知って頂けたら。運営会議に報告すると各部会に伝わるのでは。</p> <p>→HPへの掲載の仕方も検討が必要。</p> <p>→他の部会に、どうすれば連携がとれるか投げかける。</p>	報告	<p>(R6.9運営会議より)</p> <p>今年度はホームページの議事録を見てもらって、情報共有するところから始める。</p> <p>来年度から、例えば偶数月に部会をして奇数月に運営会議をする。また基幹相談支援センターが記録を集約して各部会事務局へ送ってもらう。</p> <p>→継続的にどうするか話し合っていく。</p> <p>まずは情報共有から密に行っていく。</p>
2024.5⑭	事業所	<p>・ 障害サービス申請から利用までに時間がかかる</p>	<p>申請から利用までの間に本人の意向が変わりサービスに繋がりにくい。</p> <p>→説明、周知が必要。審査会を通さなければいけないサービスもある。事務量や体制的な問題もある。支給まで児は1か月くらい、者については2か月くらい必要。</p> <p>→将来に向けて短期入所など事前申請することを行って頂けたら。</p> <p>→相談員が聞き取りをする際に、1、2か月かかることを伝えていく。支給決定までに本人のモチベーションを下げないような働きかけを行って行ければ。</p>	提出	
2024.5⑮	事業所	<p>・ 障がい児から者に移行する際のサービスの引継ぎ</p>	<p>分野を越えたサービスの引継ぎが難しい。</p> <p>→各部会にこの困りごとについて投げかけ現状確認を行う。その後解決方法を考える。</p>	現状確認	

2024 .5⑯	個人	ヘルパー不足でサービスに入ってもらえない。	必要としている方が支援を受けられず、家族の負担が軽減されていない。 →人材不足。断られることが多い。 2、3カ所に入ってもらえるが横の連携がとりづらい。 →何か加算があれば。	提出	
2024 .5⑰	個人/ 事業所	受給者証がなかなか発行されない。	利用者が不安に感じている。 相談員の予定が立ちづらい。 →2024.5⑭と同様	提出	
2024 .5⑱	個人	緊急時の受け入れができない、対応できない	拠点を謳っているのに役目を果たせていない。 →空きがあれば受け入れて頂けるのでは。 →普段からショートを使って練習していれば本人の状態が分かると言われることもある。	提出	
2024 .7①	事業所	バスの廃線や減便に伴い、公共交通機関が主な移動手段の方の就労における選択肢が減っている。	バスの廃線や減便で、通勤方法の変更を余儀なくされた方が複数おり、不利益が生じている。 Mobiや乗り合いタクシーは、利便性に劣り、通勤には使えない。 高齢の家族が送迎して通勤している事例もあり、将来への不安がある。 →障害に特化した地域課題ではなく、高齢でも同様。 →運営会議に要望を伝える。	要望	
2024 .7②	事業所	福祉事業所を利用するまでのプロセスを改めて確認したい。	例えば、今まで障害福祉サービスの利用歴がない方が、福祉事業所の見学・体験をする際に、どの時点で計画相談を決めて、引き継げばいいのか、事業所内で情報が統一されていない。支援の整合性を持たせるためにも今一度、情報を確認したい。 →まずは基幹相談支援センターに相談する。	×	